

かがやき

FREE
ご自由にお持ちください

Vol. 58
令和4年度
2号



(写真) 入職時オリエンテーション「注射法と採血」研修風景

Contents

- 臨床研修指定病院としての活動について… P2
- 診療科からのメッセージ … P3
 - ・消化器外科 ・病理診断科
- 外来化学療法室について … P4
- 総合支援センター便り … P5
- 職員紹介 … P6
- 健診部コラム … P7
- 埼玉県救急医療功労医療機関の受賞を受けて … P8

臨床研修指定病院としての活動について



さいたま赤十字病院 副院長
研修管理委員長 甲嶋 洋平

平成 28 年 4 月より研修管理の仕事をさせていただき、6 年目が過ぎました。この間に院内外の医療関係者の皆さんや患者さんの協力を得てたくさんの初期研修医、専攻医が卒業できました。改めて感謝いたします。当院での研修指導の目標は、赤十字の人道・博愛という理念に基づき

- ①あまねくすべての患者さんの common disease、rare case、serious illness に対応できる医師を育てること
 - ②救急医療の現場に対応できる医師を育てること
 - ③今後必ず起こるであろう災害に対する救護活動に従事できる医師を育てること
- です。この目標を卒業生の方々が、与えられた職場で実践していただいていることと信じています。



初期研修医は、各学年 15 名ずつ 2 学年で計 30 名が在籍しています。定員 15 名に対し、今年も全国から 150 名もの受験生が受験をしました。面接・筆記試験を行い、その中から 15 名を採用します。面接では、救急医療などの急性疾患の治療を志し、医療過疎である埼玉県の医療に貢献したいと発言される学生さんも多く、大変うれしく思いました。特に初期研修時は、医師としての根幹、将来像を築く大事な時期です。なるべく多くのつらい思いをしている患者さんを実際に診療していただくことにより、実力や自信をつけ、2 年間の研修で、患者さんに寄り添える医師になってほしいと思います。当院のプログラムの特徴として 2 年目で自由な選択期間を 8 ~ 10 か月と長めにとっており、この期間の診療科の選択は自分たちに決めてもらっています。これは各人が、自分の将来を真剣に考える時間と考えているからです。

当院では各学年 15 名と同規模の近隣の病院に比べ募集人数は多くありません。これは少人数で各診療科を研修することにより、なるべく多くの患者さんに直接に関われるようにとの配慮です。見学型の研修ではなく参加型の研修をしてほしいからです。また、救急車で運び込まれてくる多くの患者さんに臆することなく対応できるように、ER (Emergency Room) 当直と称し 2 次救急の救急車の初療を担当してもらっています。指導医のもと“救急車を断らない”を原則に 1 年目、2 年目の研修医が、真摯に患者さんに対応している姿を見ると大変頼もしく感じます。また当院だけでの研修ではなく、近隣の診療所の先生方にご協力いただき地域医療の実習を行っております。隣接する埼玉県立小児医療センターでは専門の小児医療や小児麻酔を経験させていただいています。他に、外科の先生方による縫合実習、呼吸器内科の先生による人工呼吸器の組み立て、糖尿病看護認定看護師による血糖測定器を用いた実習などを体験してもらっています。座学のみではなく、実際に体験していただくことが大事だと考えるからです。

次に卒後 3 年目以降の専攻医には、内科 (含循環器内科)、救急科、産婦人科、麻酔科、外科、眼科、総合診療科の 7 つのプログラムを用意しております。専攻医の先生達は、各診療科で指導医のもと主治医として実際に患者さんの治療に携わり、医師として自立できるように研鑽しております。また、初期研修医の指導に積極的に取り組むことにより、医療の理解をさらに深めていただいています。今後の活躍が楽しみです。

初期研修医や専攻医の皆さんがいずれ当院や近隣の病院、診療所に赴き、この地域の医療を支えてくれることを希望し指導を続けていきたいと思っております。今後とも若い先生達のご指導をよろしくお願いたします。

MESSAGE 診療科からのメッセージ

消化器外科 しょうかきげか

■最新・最善で 体にやさしい医療を

こんにちは。さいたま赤十字病院「消化器外科」です。これまで「外科」を標榜して参りましたが、令和4年9月より「消化器外科」へ科名を変更いたしました。

科名変更は、消化器がん診療を中心に、より高度な専門性をもち、最新・最善で体にやさしい医療を地域のみなさまへ提供するという、私たちの決意でもあります。胃がん・大腸がん・食道がん手術を担う消化管外科チームは、内視鏡外科学会技術認定医4名を配し、手術のほとんどを内視鏡手術（ロボット支援下＝ダヴィンチ手術を含む）で行っています。膵臓がん・肝臓がん・胆道がん・生体肝移植ドナー手術は、肝胆膵外科学会修練施設A認定を受け、高度技能専門医2名を配した肝胆膵外科チームが担当します。肝胆膵外科でも内視鏡手術（膵臓では主にダヴィンチ手術）が増えています。もちろん、鼠経ヘルニア・胆石・腹部救急疾患などの一般外科診療も、これまで通りしっかりお受けいたします。

やさしい手術を受けて、早く元の生活に戻っていただけるよう、リハビリテーション科・医療ソーシャルワーカー・入院支援課・かかりつけ医と連携し診療していますので、さいたま赤十字病院「消化器外科」を安心して受診してください。

部長 新村 兼康



病理診断科 びょうりしんだんか

■患者さんの病理診断を滞りなくかつ 正確に行い、的確な治療につなげて おります

地域がん診療連携拠点病院である当院には、近隣の医療機関から紹介された様々ながん患者さんが受診されます。がん診療には病理検査による確定診断が欠かせません。当院で生検、手術により採取された病理検体の診断のみならず、既に紹介元の医療機関で行われた患者さんの病理検査につきましても、病理プレパラートや病理検体（パラフィンブロック）を借用し、再度病理診断を行い、的確な治療につなげております。連携先医療機関の皆様におかれましては、病理プレパラート、パラフィンブロック借用の際は、ご協力をよろしくお願いいたします。



がん診療は日進月歩であり、近年、病理検体を用いた様々な遺伝子検査が保険適応になっており、一部は院内検査も行っています。

当院はがんゲノム医療連携病院に指定されており、連携先医療機関からの遺伝子パネル検査の依頼も増加しております。

病理医は、正確な病理診断を行うことはもちろんですが、患者さんの病理検体に遺伝子検査に十分ながん細胞があるかを判断し、検査によって患者さん個々に適した治療薬を選択することに繋げる役割も担っております。

部長 安達 章子

外来化学療法室について

化学療法室長

血液内科 副部長 三橋 健次郎

外来化学療法室とは、がん患者さんに対し、主に点滴による薬物療法を提供する場所です。がんの治療法には「手術療法」・「放射線療法」・「薬物療法」があります。薬物療法は抗がん剤投与によってがん細胞を死滅させたり、増殖を抑えたりする治療法のことです。手術や放射線のように局所的に行う治療と異なり、からだ全体に薬を巡らせて作用させるため全身療法ともいわれます。現在、これらの治療を組み合わせる集学的治療が主流になってきており、薬物療法は多くのがんで治療成績の向上に寄与しています。

近年の薬物療法では、がん細胞の一部を標的として選択的な攻撃を行う分子標的薬が数多く開発され、体への負担が軽減されています。さらに吐き気や造血障害などの副作用・合併症を軽減する薬剤の進歩により、外来でも安全に薬物療法ができるようになってきました。薬物療法を入院ではなく外来で行うメリットは、家庭生活や仕事を続けながらがん治療を受けられるということです。高齢の患者さんでは、長期の入院により体力や認知機能が低下してしまうリスクを軽減させることも期待できます。

当院の外来化学療法室の特徴

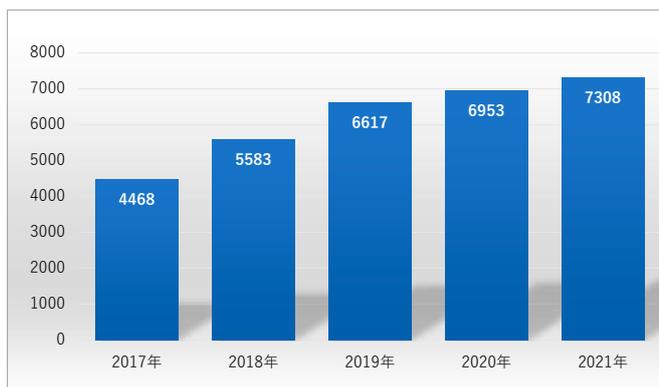
当院は「地域がん診療連携拠点病院」および「がんゲノム医療連携病院」に指定されており、質の高いがん医療を提供するとともに、患者さん一人一人の遺伝子情報に基づく薬物療法を受けられる体制を構築しています。

外来化学療法室にはリクライニングシート21台、ベッド6床を配置し、患者さんの病状に応じて安全で快適な治療ができるように配慮しています。高度急性期機能を

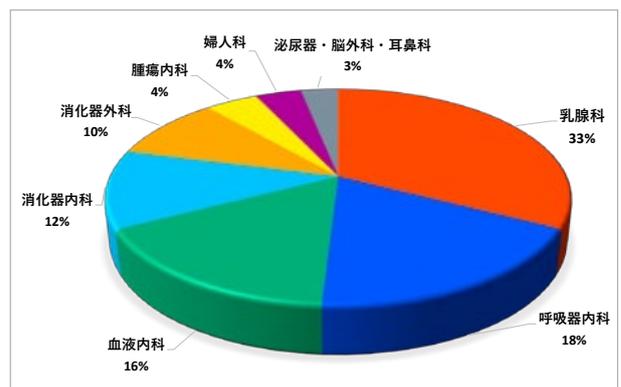
有する総合病院という特徴から、当院には様々な病状や社会的背景を有するがん患者さんが通院されています。治療に伴う副作用は患者さん毎に大きく異なり、悩みも様々です。これらを少しでも軽減しながら治療が継続できるように、医師、看護師、薬剤師をはじめとした多職種が協力して運営に当たっています。2021年度には外来化学療法室で7308件の薬物療法を実施し、2017年の新病院移転以来、毎年増加しています。



外来化学療法実施全件数の推移



診療科別実施割合（2021年度）





社会福祉士や精神保健福祉士を

(MSW：医療ソーシャルワーカー) (MHSW：メンタルヘルスソーシャルワーカー)

ご存じですか？

相談福祉課長 椎名 是文

MSW や MHSW が、患者さんとそのご家族にかかわる **社会的・経済的・心理的な悩みなどの相談**に、社会福祉、精神保健の専門家として問題解決のお手伝いをしています。内容によっては、行政などの関係機関や他の医療機関、介護施設とも連絡をとりあい、**地域全体で患者さんの療養生活を支援**できるよう働きかけています。

相談福祉課 (MSW) の役割

当院は、高度急性期病院として、救急車や他の医療機関からの紹介患者さんの受け入れ、集中的な高度医療の提供にも努めております。そして、その病院機能を維持していくために、急性期治療を終了した患者さんには速やかに退院や専門医療機関への転院のお話をさせていただいています。そのため相談福祉課では、退院にかかわる相談や経済的な相談、社会福祉制度にかかわることなど多岐にわたる相談にも応じております。お困りの事があればご相談下さい。

例えば

- 入院したけど医療費など経済的に心配。
- 退院後の療養生活のことが心配。
- 社会福祉制度（介護保険や障害福祉など）って何？利用できるの？
- 療養する病院や施設について知りたい。紹介してもらえるの？
- 職場や学校のことが心配。

ご自身やご家族が突然病気になってしまい、どうしたらよいのか分からず一人で悩んでいませんか？まずは、相談福祉課まで相談してみてください。



利用方法 原則予約制

- お電話で直接相談頂くか、お急ぎの方は 10 番窓口にお声かけ下さい。お待ち頂くこともありますので連絡を頂きお越し頂く事をお勧めします。
- 医師、看護師など院内の職員にお尋ね頂いても構いません。状況に応じて病室へ訪問も致します。



受付時間

午前 9:00～午後 4:30 (平日のみ)

電話番号

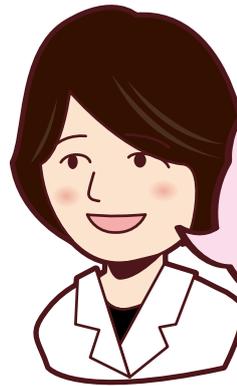
048-852-1111





ICUに 管理栄養士?

栄養課 管理栄養士
(ICU 専任・NST 専任管理栄養士)
青木 律子



入院患者さんの
栄養管理を
担当しています

◆ 集中治療室 (ICU) とは

ICUは心肺停止や重症感染症、脳血管障害、多発外傷、急性中毒、広範囲熱傷などの重傷疾患で生命の危機的状況にある患者さんの命を守るところです。COVID-19で注目されたECMO（体外式膜型人工肺）の管理を行っているのもICUです。

ICU入室に関連した運動・認知・精神機能障害を集中治療後症候群（PICS）と言い、患者さんの長期予後だけではなく家族の精神にも影響を与えたとされています。その中でも、運動機能障害として、特に重症疾患罹患後の筋力低下であるICU-AW（ICU-acquired weakness）が注目されています。



◆ ICUは宇宙よりも過酷な環境!?

人間は1週間寝たきりの状態になると15%の筋力が低下すると言われています。重力がほとんどない宇宙に長期滞在すると、毎日2時間の運動プログラムを実施しても5~15%の筋力減少が起こるそうです。宇宙飛行士が帰還後に自力で歩けないのは筋力も関係しているのです。ICUでは重力はあるものの、自由に動くことができない、筋力が低下するような薬剤を使用するなどリスクを抱えており、宇宙よりも過酷な環境と言えるかもしれません。



◆ ICUでの栄養管理

ICU-AWを予防するためには、早期からのリハビリテーションと栄養管理を同時に適切に行うことが重要と言われています。当院では、栄養とリハビリテーションの回診を同時に行い、医師、歯科医師、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士が協働して患者さんの治療に関わっています。管理栄養士は、栄養管理計画の立案と栄養投与状況、胃内残量、排便状況などに応じ、早期から適切な栄養管理が行えるよう多職種と連携を図っています。

栄養サポートチーム (NST) 専門療法士認定教育施設



当院は臨床栄養代謝学会認定の栄養サポートチーム (NST) 専門療法士認定教育施設として認定を受け院内外のメディカルスタッフの教育活動を行っています。より多くのスタッフが栄養管理に関する知識を身に付け、患者さんに還元できるようにチームで診療を行う体制を強化しています。



人間ドックの「ドック」は、船の修理や建造用の施設のこと。船が長い航海のあと次の航海に向けて点検・修理をするためにドックに入るように、人生という長い航海にも定期的にドックに入る必要があるという考えから、人間を船に見立て「人間ドック」と名付けられたとされています。

病気の予防や早期発見は非常に大切なことであり、がんや心臓病、糖尿病などの多くの成人病は、症状が出てからでは病気が進行してしまい、手遅れになってしまうこともあります。

定期的な人間ドック等を受診することで、手遅れを回避できる可能性が高くなります。

是非、人間ドック等の定期的な受診とオプションを活用した、「からだの総点検」をお勧めいたします。

総合病院のメリットを活かし、皆様に安心をご提供いたします。

当院では健診センターに従事している職員の他に検査や読影・判定については各専門分野の医師や技師が担当しており、チームワークの良い運営をしています。再検査が必要な場合は、該当する診療科で再検査を受けることができます。

★当健診の特徴 その1

非常に人気です

鎮静下ハイビジョン拡大内視鏡を使用

上部消化管X線検査をオプションで内視鏡検査に変更することができます。検査は消化管内科の熟練医師が担当します。拡大して見るため微小病変が発見しやすく、また、拡大やNBI（画像を強調して観察する）を使用することで、生検（病理検査）をしなくても良性かどうかの判断が可能です。



通常内視鏡



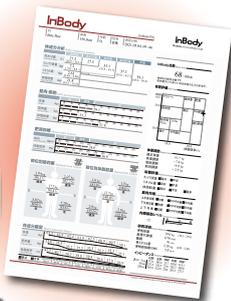
拡大内視鏡

★当健診の特徴 その2

本年7月新機種に入替ました。
好評をいただいています

身長や体重測定等でインボディーを使用

身長や体重測定のほか体成分分析や筋肉・脂肪量等を測定した結果表をお渡しています。

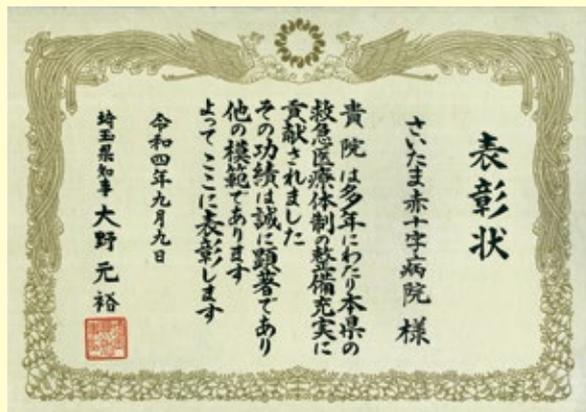


日帰り人間ドックはスタンダードなコースで、紙面での結果報告になります。その他、通院二日ドック、プレミアムドックや脳ドックのように、後日すべての結果を基に医師から結果説明を受けるコースもご用意しております。

また、PET・CT検査などのオプションもここ数年で充実してきました。皆様の「人生100年時代」に向かって、少しでもお役に立てればと考えております。

健診課長 反町 武彦

令和4年度
「埼玉県救急医療功労医療機関」
の受賞を受けて



当院は、令和4年9月9日に埼玉県より「埼玉県救急医療功労医療機関」としての受賞を受けました。受賞の背景として、埼玉県内の令和3年の救急搬送者数は令和2年に比べ増加に転じている状況ではありますが、救急患者を受け入れる医療機関数は横ばいとなっております。

この状況の中で救急医療の更なる充実を図るためには、救急搬送の迅速化や受入医療機関の整備・充実、適正受診の推進に努めることに加え、救急医療に対する医療関係者の意識の高揚が不可欠となっていることから、埼玉県内の救急医療に功労のあった団体、医療機関、個人に対し表彰が行われました。

埼玉県内では、当院を含む6つの医療機関が知事表彰被表彰者として当表彰を受賞しております。

さいたま赤十字病院の理念

赤十字の人道・博愛の精神に基づき、信頼される医療をおこないます。

さいたま赤十字病院の基本方針

1. 患者さんの権利を尊重します。
2. 地域との円滑な医療連携に努めます。
3. 医療の質の向上に努め、安全な医療を提供します。
4. 優れた医療人の育成に努めます。
5. 健康経営を推進し、働きやすく活気あふれる職場作りに努めます。
6. 国内及び国外での医療救援活動に積極的に参加します。

患者さんの権利

1. 公平で適切な医療を受ける権利
2. 個人の尊厳が保たれ、人権を尊重される権利
3. プライバシーが守られ、個人情報保護される権利
4. わかりやすい言葉で検査や治療などの説明を受ける権利
5. 自己の決定権が確認され、医療行為を選択する権利
6. 安全・安心な医療を受ける権利
7. 他施設の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利
8. 自己の診療記録等の開示を求める権利

患者さんに守っていただく事項

1. 健康に関する情報を医師や看護師等にお知らせください。
2. 医療行為については、納得したうえで指示に従ってお受けください。
3. 病院内ではルールを守り、他の人に迷惑にならないよう行動してください。
4. 診療費の支払い請求を受けた時は、速やかにお支払いください。